

市 研 特別活動 速報

【中学年部会】

発行日 平成28年7月15日

横浜市立小学校特別活動研究会

会 長 高橋 宏明

研究テーマ 明るい未来を切り開く子どもを育てる学級活動の在り方
～集団活動を通して、子どもの自尊感情を高めるためには～

活動名 「係のがんばりをクラスの友達に見てもらえる『協仲高係発表』を成功させよう」
テーマ 明るい未来を切り拓く子どもを育てる学級活動の在り方

○活動のねらい

「係のがんばりをクラスの友達に見てもらえる『協仲高係発表』を成功させよう」の活動を通して、互いのがんばりに気付き、進んで友達とかかわろうとする態度を育てる。

○テーマにせまるための具体的な手立て

- ・計画書を活用し、役割を明確にして係の友達と同じめあてに向かって活動できるようにする。
- ・朝や帰りの会に「係日記」や「係のよさ発見」を発表するコーナーを設け、他の係にも目を向けることができるようにする。
- ・振り返りの場を設け、係の友達と力を合わせてがんばっているところを学級の友達が見てくれていたという喜びを味わうことができるようにする。

○研究討議・講評から

- ・計画書を活用して、役割の明確化を図ったことがよかった。自分が何をするか、何をしたいかが明確になることが活動の活性化につながる。
- ・「係日記」を書いたり、発表したりすることが、係以外の友達へ目を向けるきっかけとなった。小集団でできていた『認め合い』を全体に広げることで、クラスに受容的風土が生まれていた。
- ・活動の終わりには、係に対する子どもの表現が「わたしの係」から「わたしたちの係」に変わっていた。「わたしたちの係のがんばり」を認めてもらう振り返りを積み重ねたことで、係活動の価値をクラスの友達に認めてもらえた喜びや、役立ち感を得ることができていた。
- ・係活動が大好きな学級であるという実態をとらえて、「係発表」という活動を設定したことがよかった。発達段階に合っており、子どもたちにとって魅力ある活動になっていた。
- ・活動を通して、子どもの自尊感情がどのように高まっていったのか、見取る方法が課題。活動前、中間、活動後と定期的に変容を追っていくことが必要ではないか。
- ・この活動は「広げる（共有する）」がポイントだったので、日記やカードなどの手立てが有効だった。がんばった姿を認め合うだけでなく、係活動の質を高めていくことができるような支援が必要である。
- ・活動の過程で自尊感情を高める手立てをとることも大切だが、活動のねらいを達成することで最終的に自尊感情を高めることも大切にしたい。めあてを達成した喜びや、活動をつくりあげた成就感を味わえ、自分の思いや願いが実現していくことを経験できるような魅力ある活動を考えていきたい。